

## 研究発表 講評

### グループ1～3 講評

植木 美希 日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 教授  
日本獣医生命科学大学 ダイバーシティ推進委員会 委員長

皆様ご発表有難うございました。限られた時間の中でグループワークをしていただき、素晴らしい発表を聞かせて頂きました。オンラインでの講評のため、お話をお伺いしながらポイントのみスライドを作成させていただきましたのでスライドを使用しながらコメントさせていただきます。

### グループ1

グループ1に関しては、分かりやすい申請書を作るためのポイントを的確に指摘して頂いてとても良かったと思います。研究費獲得の方法の4番目に挙げられていた研究業績を創るための大学支援というのが重要なキーでしょうか。専任の研究・アドミニストレーター（URA）を育成・確保、そのあたりが今後の大きな課題だと思いました。補助金でURAを育成・確保する方法もありますが、他大学で専任の研究・アドミニストレーターを置いたことで科研費採択率が上がった例も紹介されていました。やはり補助金の有無にかかわらず専任でURAを置くことを始めて頂きたい。日獣大の場合は、アカデミックアドバイザーが学内教員であるため、申請者の制度利用への躊躇があること、アドバイザーも兼務であるため時間に限りがあることなどを考えるとやはり専任のURAを確保することが科研費等の研究費申請と採択率を上げるために今後重要になってくると思いました。

<p>グループ1 研究費獲得方法</p>	<p>課題</p>
<p>1) 研究費獲得に向けた第1歩</p> <p>2) 産学連携共同研究に向けた外部資金の獲得</p> <p>3) 研究費獲得に向けた申請書作成のポイント わかりやすい表・ポイントの指摘</p> <p>4) <b>研究業績を作るための大学の支援</b></p>	<p>• 情報の発信（今回の成果も含めて）</p> <p>• 研究費獲得へのサポート体制の充実</p> <p>• <b>大学として研究費支援</b></p> <p>• <b>大学として専任の研究・アドミニストレーター（URA）の育成・確保が課題</b></p>

### グループ2

グループ2の方に関しては、独自に留学経験者にGoogleフォームを使ってアンケート調査を実施され大変面白いアンケート結果が出ていると思います。事務局で設定したテーマ『効率の良い留学』より広くて深いテーマの『充実した留学生活を送るためには』の内容になっていたと思います。実は昨日、本学でも留学経験者のインタビューを行いました。留学が自

分にも帯同者にとっても良かったという感想を持たれた先生もいれば、正直なところ、海外での研究生活は辛かったという率直な意見もありまして、今後、留学支援事業を進める際、良い面だけではなく、負の側面もしっかり情報発信していくということが必要だと思えます。ところで本学の場合、在外研究や留学をしたい場合は50歳まで留学制度を利用する必要があります。今後留学プロジェクトを進めていく上では、年齢制限の見直しやサバティカルの採用など取り組むべき課題もありそうです。長期の留学ではなくともサバティカル制度があれば短期間でも海外研究や海外との共同研究をできるチャンスができます。より研究意欲も高まるのではないかと、あるいは留学を通して海外の様子を知れば研究はもちろんのこと教育の場でも学生さんたちに情報発信と社会還元ができます。大学として留学制度を充実させていけば、これから留学する研究者が増えるだろうと考えます。

<p style="text-align: center;">グループ2 効率の良い留学 —充実した在学研究を送るためには—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• まずは2大学の状況を知る—情報収集</li> <li>• アンケートの実施</li> <li>• アンケートから見えてきたもの</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>課題・成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 結果を並行して進行している留学（在外研究）推進プロジェクトにも反映させることが可能</li> <li>• 情報収集と情報提供・共有</li> <li>• 大学への期待（在外研究を遂行しやすい環境作り・2回目、サバティカルを含めて）</li> </ul>
--	---

### グループ3

グループ3の発表、これも非常に重要なテーマです。研究発表に際していかにしてミスのない準備をするか、研究内容にあったジャーナルを見つけるか、先生が日々努力されていることが感じられる発表でした。特に自分で論文作成のための時間を確保すること、日々お忙しい中で自助努力をされていることがひしひしと感じられ、頭が下がります。確かに論文作成の時間を各人がどの様にして確保するかはとても重要なことですが、その研究者のポストによっては、教育に時間をとられているとか、医大の場合でしたら診療に時間取られて、論文作成時間が確保できないという部署、その様な部署の先生もいらっしゃるかと思います。あるいはご自身が良い研究をされていてご自身のライフイベントがあったりして、あと一歩というところで中断してしまい、なかなかまとめる時間が取れないということもあるのではないのでしょうか。研究者がより完成度の高い論文発表できるための、時間を確保できるような仕組みを、これも大学としてもっと整備してサポートしていく必要があると感じました。

グループ3  
効率的な研究成果発表

- いかにして**ミスのない準備**をするか。
- 研究内容にあったジャーナルを見つける。
- 適切なジャーナルの選択。
- 正しい論文の書き方
- 英文校閲

課題

- 研究成果のお蔵入りを避けるためには？
- 研究時間や論文作成時間の確保の方法
- **目標設定**
- 大学のサポート体制の充実（サポート体制の充実）

以上、簡単に3つのグループの発表の講評をさせていただきました。限られた時間の中で今回のグループワークを通して、今後の研究力向上のための課題が見えてきました。その課題解決のための具体的な方策をこの事業を通して具体的に速やかに実行していく必要があります。

さて最後に、どのグループも短時間で素晴らしい結果を出していただきました。初めてチームを組まれたはずですが、チームワークが素晴らしい、日頃研究力を鍛えていらっしゃる成果だと思います。その上でご参加いただいた先生にお伺いしたいことは今回の両大学の共同作業でどのような感想を持たれたか、お互いの大学の理解度が深まったか、グループワークで新たな発見、研究力向上のヒントになるものがあったのか、率直な感想を是非伺ってみたいところです。本当にありがとうございました。

#### グループ 4~6 講評

柿沼 美紀

日本獣医生命科学大学 獣医学部 教授

学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター 副センター長

#### グループ 4

実は私アカデミスト（学術系クラウドファンディングサイト）を見るのが好きで、リターンは何かというのがすごく気になっていたのですが、実際に私も模擬申請書の作成に参加したいと思うような楽しい発表でした。リターンをどうするかという課題はなかなか難しいので、みんなで知恵を絞って、あとは大学内でどこまで許されるかっていうのが。理科系だとどうしても難しいので、そのあたりを見ながらできるとよいです。生物系が強いみたいな、恐ろしいものがいっぱい出てきたりするんですけど、そこはやはり内容を簡単にして、皆さんに発信できる方がもっと楽しい感じがしました。

#### グループ 5

海外の留学に関して一番面白かったのは、日本にきている人たちのデータをとった、あの発想がやはりすごいなと思いました。それから世代的には、私の世代は独身で行くという形が一番多かったように思います。このデータは今すぐ何かに使えるというだけではなく、今後海外から日本にきていた人たちが海外へ戻った時に、今度は次の世代を育てるためには、自分たちのように独身の世代だけじゃなく、本職を持っている大人の人でも来られるような環境を日本で作りますという、そういった次のステップにもつながるデータだなと思い、とても面白く拝見しました。

#### グループ 6

産学連携に関しては、日医大はすでに実績があり、有名なコマーシャルになっているような実績があるので、その大切さみたいなことや、何かあればここに聞けばいいというような発表だったので、そういう意味では楽しいし、励みになる。雲の上の何かではなくて、実用的な、アンファーの人にも入って頂いて、ほかの発表とは質の違うものができたと思います。

どの発表も、若い人が本当に育っているのだなというのがわかり、楽しかった。最初に思っていたのと全然違うことが出てきたので楽しかったです。

## 研究人材育成セミナー

### 「女性のキャリア形成 ～多様性尊重の時代へ～」

小宮根 真弓 (こみね まゆみ)

自治医科大学 皮膚科学教授、医師・研究者キャリア支援センター長



男女共同参画や女性活躍推進など、最近女性の社会進出を促す動きが盛んです。歴史的な背景もあり女性の社会進出には支援が必要です。自治医科大学では平成19年に女性医師支援センターが発足し、平成26年からは医師・研究者キャリア支援センターとして活動を続けています。自治医科大学でのキャリア支援の内容をご紹介します、女性の置かれた立場がどのように変化してきたのか、今の時代の課題は何か、またより多くの多様性を認める時代へ向かってどのように踏み出していったらよいのかを一緒に考えていきたいと思えます。私は皮膚科の臨床医ですが、臨床症例の中から問題点を見出し、多少とも基礎的な研究に発展させるように努力しています。先進的な研究室ではありませんが、臨床症例での疑問点を解決していく中で、少しずつ研究の枠を広げて臨床にも役立つ仕事をする事ができればと考えながら、基礎系学部卒業の方々、PhDの先生方と一緒に仕事をしています。一つの問題に対していろいろな角度から様々な人々が取り組むことで、解決策もより幅広く良いものが得られる可能性が高くなると考えています。医学研究を基礎系の先生方に任せておくのではなく、臨床的視点からもアプローチすることは、今後の医学の発展にも重要と考えています。

#### 経歴

昭和63年	3月	東京大学医学部医学科卒業
	63年12月	東京大学医学部附属病院皮膚科助手
平成	2年	6月 関東通信病院皮膚科勤務
	5年～8年	ニューヨーク大学メディカルセンター皮膚科 研究員
	8年	5月 東京大学医学部附属病院皮膚科 助手
	13年	4月 東京大学医学部附属病院皮膚科 講師
	19年	6月 自治医科大学医学部皮膚科学講座 准教授
	28年	4月 自治医科大学キャリア支援センター センター長 (兼任)
	30年	8月 自治医科大学医学部皮膚科学講座 教授

#### 専門

炎症性皮膚疾患、特に乾癬の臨床と病態、膿疱性乾癬、ケラチノサイトの生物学

#### 所属学会

日本皮膚科学会、Society for Investigative Dermatology、日本研究皮膚科学会、日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会、日本乾癬学会、日本臨床皮膚科医会、皮膚かたち研究学会、日本医真菌学会、日本細胞生物学会、日本炎症・再生医学会

2020年度 第1回 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト

研究発表会・研究人材育成セミナー アンケート結果

申込者	46名
参加者	41名
会場	18名
オンライン	23名
アンケート回答	22名

アンケート回答者の属性

性別	男性	6名
	女性	14名
年齢	20代	0名
	30代	12名
	40代	6名
	50代	2名
	60代	0名
職種	医師	4名
	研究	3名
	講師	5名
	助教	6名
	ポスドク	1名

## Q2 研究発表会の満足度

### 満足 12名

意外な視点からの研究内容があり、楽しませていただきました。

集まらない状況の中、1つのテーマに向かって交流、知識を深めることができ、とても有意義でした。

とても勉強になりました。オンラインでしたが、聞き取りにくいところがありました。

他のグループの研究内容を知ることで、今後の研究助成金の獲得の仕方、キャリア形成に向けての考え方、産学連携等の自分だけでは得ることができなかつた色々な情報を得ることができたことは今後非常に役立つと思います。

研究・論文執筆に取り組むために必要なことを知れてよかったですと思います。

各グループよく調べてあって、良い発表会だったと思います。

外部資金の獲得やクラウドファンディングの活用などの次世代的な資金の獲得方法など大変勉強になりました。

役に立つ情報がたくさん聞けました。ありがとうございました。

### やや満足 4名

多々参考になりました

自身の分野以外におけるキャリア形成に関する意見や知識を知ることができ新鮮だった。

もう少し具体的な事例や体験談が聞けると良いかなと感じました。

### 普通 1名

ディスカッションの時間が短かった。せっかくライブイベントのさなかの教員を集めているのでもっと意見交換などできればよかったと思う。

### やや不満 2名

声が聞きづらかった

タイムキーパーが機能していなかったと思います。また途中で中断する場面もあったのも残念でした。

### 不満0名

## Q3 研究人材育成セミナーの満足度

### 満足 10名

その時に必要なことをこなされながら、キャリアを形成されている先生の生き方に感銘を受けました。

大変興味深い内容でした。男性の医師に聞いて欲しい内容でした。

自治科大学におけるかなり革新的なキャリア形成支援、働き方改革の押し進め方などを知ることができて、今後日本医大でも役に立つ内容を聞くことができ他ののでよかったです。今後の大学医局においては小宮根先生がお話しされたように、色々な立場の人々によってさせていくことになるので、それぞれの働き方、多様性を認めつつ医局を運営していく方法を検討していくべきだと感じました。

パワーをいただきました。

女性医者視点でのこれまでの取り組みについて聞くことが出来て良かったです。

### やや満足 6名

セミナーを聞くことで普段あまり意識することがない課題点が浮き彫りになった。

先生のキャリアや自治医科大学での取り組みなどとても興味深く聞くことができました。

---

普通 3名

---

参考になりました

---

やや不満 0

---

不満 0

---

#### Q4 今後セミナーで講演を聴きたい方

---

病院で働き方改革を積極的に進めている先生のお話を伺いたいです。(婦人科の中井章人先生)

---

佐藤雅昭 ・企業などで女性のキャリア支援の充実している会社等の制度整備にかかわっている方・海外の助成支援制度、考え方に詳しい方

---

隈丸加奈子先生(順天・放射線科) ダイバーシティ関連の講演を何個かされています

---

海外で研究者として働いている方

---

早稲田大学は介護への支援も力を入れているので、早稲田大学の先生のお話を伺ってみたいです。

---

宇宙飛行士

---

#### Q5 今後のセミナーに希望するテーマ(内容)

---

ハラスメント行為をうまく対処する方法(声かけの仕方、当事者から相談を受けたときなど)、職場でのコミュニケーション力アップ術

---

臨床研究の計画、申請、実践まで・論文作成ブートキャンプ・ワークライフバランス

---

論文書くセミナー、グループワークなど

---

女性活用等の話ではなく、もっと研究において実践的な内容が聞いていて面白いし、役に立つと思う。

---

仕事と家庭の両立について

---

介護支援について

---

遺伝子工学の現在(倫理観など含め)

---

#### Q6 その他ご意見

---

発表中にオンラインの参加・退出の音を鳴らさないでほしい。発表用PCに参加者からの承認要請が入り、操作できなくなりましたので円滑な発表のために改善してほしいです。

---

今日のように演者が何人もいる場合、マイクに装着するディスプレイカバーを着けた方が良いかと思いました。同じマイクを数人で使うのは感染防御の観点から避けるべきかと思いました。そのような機会は度々ないかもしれませんが、ご検討ください。

---

働く女性だけでなく、共働き夫婦の男性へのサポートの充実を切に願います。

---

発表の良い機会をありがとうございます。

---

勤務時間内にこのようなセミナーを運営していただけると参加しやすかったです。またアーカイブとして一定の期間残していただけると、聴講できなかったところを見返すことができるのでそのようにして欲しいです。

---

#### このプロジェクトに参加しての意見、感想

---

##### 研究テーマ

---

どれも興味を引くテーマだと思います。

---

よい 興味深い内容が多かったです

---

あらかじめテーマ案を提示頂いたのでテーマ設定がしやすかったです。

---

よかったですと思います

---

若手、女性キャリア形成において非常に有用なテーマであったと思います。

キャリアアップのための題よりも、ライフイベントのさなかでいかにキャリアを維持するか、というテーマがほしかった。キャリアが維持できないために辞職を考えている同僚が多い中、キャリアアップの効果的なプラン、というものに現実味を感じなかった。楽しかったです。

今回発表がなかった部分も聞いてみたい

キャリア形成に関わる重要事項が十分カバーされていたと感じる。

自分の希望するテーマではなかったが、メンバーと勉強させて頂きとてもためになりました。

「効率のよい」留学という設定は偏見がありすぎた。効率を求めないで下さい。

## メンバー

日頃交流のない先生方と仕事が出来て良かったです。

様々な分野のメンバーと情報交換できたのが新鮮だった。

様々な分野の先生とひとつのグループというのは面白かった。

グループワークをするためには適当な人数だったと思います。

適切だと思います。

今回のやり方でよいです。(2名)

他部門の先生とdiscussion出来て大変勉強になりました。

リーダーの安藤先生がとてもうまくまとめてくれた。

いろいろな相談ができるメンバーであり非常に良かった。

大変優秀な先生方で関わりが持てて大変貴重な体験となりました。

コロナ禍で実際に会って話し合うことはできなかったが、メールをなどで意見のやりとりが上手く行えたと思います。先生方みなさん、優しく積極的でとても助けられました。

コロナの影響で直接集まったの議論は困難な状況でしたが、それぞれが役割分担し有効に進められたと思います。

みんなで頑張ったと思います。

## 研究期間

適切であったと思います。(6名)

長すぎず短すぎず適切な期間でした。当初のレポート発表期限(10/30)は少しタイトでした。

十分でした。

他の仕事もあり、忙しかったためもう少し時間が欲しかった。

短かったが早く終わらせるのも大切かと思う。

研究というよりは、調べただけなので、時間はそんなにかからなかった。むしろ、忙しい時期なので、そんなに時間はかけられなかった。

科研費申請や教育期間と重複していたので、もう少しdutyが少ない時期の設定の方がありがたかったかなと思います。長さは適切だったと思います。

科研費と重なる時期で大変だった

もう少し余裕があっても良かったかなと思いました。

## 発表形式

良かったと思います。(5名)

---

適切だと思います (2名)

---

短時間で集中的に聞けるので現行の発表形式が良いと思う。

---

オンラインで他の班の発表も聞くことができましたのでよかったです。

---

適当であったが、発表したもの、研究したものが実際に何かしらの形で学内で共有されるのかが知りたかった。

---

オンラインからの発表もOKにしてほしかったです。

---

声が聞き取りにくかったので、発表は事前に動画を作って、質問はオンラインでやった方が良かったと思う。時間も押していたので、

---

もっと自由な方法が良いのでは？ 各グループの資料をあらかじめ配り当日質問しやすい環境にして頂けると、より会が盛り上がり有意義なものになると思いました。

---

## ポイント付与

---

希望します

---

良いシステムである。是非日獣の男性にも。

---

現行の制度で良いと思う。

---

適切と考えます。

---

そのために頑張ろうと思いました

---

今回のポイント制度は不明瞭なので研究費として少し頂けたら助かります。

---

実際どのくらいの割合のポイントが付与されるのか分かりませんが、このようなプロジェクトに参加して下さるといことは事業に貢献していただいていることを意味すると思いますので特にリーダーの方にはできるだけ多くのポイントを付与して頂きたいです。

---

期待するものへの貢献度が不明であり (ポイントでどの程度応募の通りやすさに差がでるか、など) あまり魅力を感じなかった。

---

何のためのポイントか？ 詳しい内容がわからなかったです。

---

何かしらのインセンティブがあった方が良いと思います。

---

ポイント目当てのために、参加表明してメンバーに入っているものの研究に参加しない人がいたので残念だった。

---

結婚も子供もないので、ポイントは使えない。

---

## その他

---

学生さんや研修医など、今後のキャリア形成が未定であり、将来有望な研究者になられるであろう先生方にも、参加していただけると良いかと思いました(メンバーとは違った形でも良いかもしれません)。

---

今後も機会があれば参加したいと思います。

---

今回の一番の魅力はチームメンバーと知り合い意見交換できたことであった。

---

この機会に感謝いたします。

---

他大学の先生と交流が持ててよかったです。コロナ禍は残念です。

---

今回のグループワークでは、ほぼ不参加のメンバーが6人中3人もいた。オンラインミーティング不参加、メールの返信なしという状態の人にも同じポイントが与えられるというのは不平等。これまで何度かチームで仕事をしてきたことはあるが、このような思いをしたのは初めてだった。女性の上位職登用には、仕事に対する責任感など、女性側の意識改革が必須だと感じる良い機会だった。

---

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)  
**2020年度 第1回 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト参加者募集(案)**

今般、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)補助事業の一環として、第1回 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクトを実施いたします。

参加者を以下のとおり募集いたします。

### プロジェクトの目的と概要

2019年に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)では、ダイバーシティ研究環境の実現、女性研究者の研究力の向上・上位職への登用促進などを目的としています。

この事業の一環として実施する「第1回 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト」では、連携機関に所属する女性・若手研究者、大学院生、ポストドクターなどが集結し、今後の医学・生命科学研究者のキャリア形成に関して話し合う機会を作ります。また、連携機関の産学連携部門と連携して「研究人材育成セミナー」を開催し、女性・若手研究者に多様なキャリアパスの選択肢を提供します。今後のキャリア形成の一助となるプロジェクトへの多くの女性・若手研究者の参加を期待しています。

### プロジェクトの内容

- 1)参加者を7人程度のグループに分け、グループごとに以下の課題のいずれかを研究する  
研究の方法、形式、時間などは各グループの裁量とする
- 2)グループリーダーはレポートを提出し、レポートで評価を行う
- 3)研究発表会、研究人材育成セミナー、交流会を開催する  
開催方法(オンライン開催または会場開催)は検討中
- 4)参加の特典として本事業で実施する以下の支援制度への応募に際し、ポイントを付与する  
グループリーダーにはさらに高く付与する
  - ・新型研究支援員配置制度(出産・育児・介護などライフイベントのある研究者に限る、大学院生は対象外)
  - ・連携機関における共同研究への研究費補助(女性研究者に限る、大学院生は対象外)

### 研究課題

- ・効率の良い留学
- ・研究費獲得方法
- ・研究ポスト獲得方法
- ・産学連携共同研究の展開方法
- ・国際共同研究の展開方法
- ・効率的な研究成果発表

## 1. 対象者

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社に所属する以下に該当する方  
女性研究者、男性研究者※、ポストドクター、大学院生  
※男性研究者は40歳未満がのぞましいが限定はしない

## 2. 募集人数

60名

## 3. 参加応募期間

2020年8月31日(月)まで

## 4. 研究期間

2020年9月14日(月)から2020年10月16日(金)まで  
レポート提出は2020年10月30日(金)まで

## 5. 研究発表会と研究人材育成セミナー開催日

2020年11月頃を予定  
開催方法(オンライン開催または会場開催)は未定です。

## 6. 応募方法

申込フォームよりご応募ください。 <https://one-health.jp> (One Health ウェブサイト)  
第1回 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト参加申請書

## 7. 選考及び通知

採否およびグループ分けは、学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター委員の本プロジェクト  
担当者が決定します。

結果は、2020年9月10日頃に応募者に通知します。

## 8. 提出及びお問合せ先

学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センター事務室  
〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5 日本医科大学図書館1階  
TEL 03-3822-2131(内線 5502, 5503)  
✉ app-shien@nms.ac.jp

## 2020年度 第1回 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト 報告書

発行 学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター  
〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5  
日本医科大学図書館1階  
03-3822-2131 (内線5502, 5503)  
app-shien@nms.ac.jp

編集 学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター  
土佐 眞美子  
神田 奈緒子

2021 (令和3) 年 2 月

禁無断転載



---

学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター

〒113-8602 東京都文京区千駄木 1-1-5

TEL 03-3822-2131

E-mail [app-shien@nms.ac.jp](mailto:app-shien@nms.ac.jp)

URL <https://www.nms.ac.jp/shien/>

<https://one-health.jp/>

---